

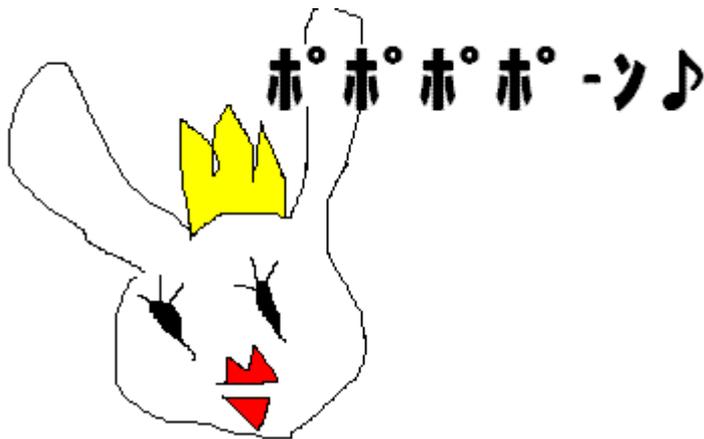
東日本大震災と私

作成者 F.A

はじめに・・・ 「東日本大震災とは？」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD>

上記に多くの情報が載せられてあります。Youtube などであのときの映像を見るのもいいかもしれません。



menu

- 1、[地震当日 2011.3.11 の私の体験](#)
- 2、[地震後 3ヶ月間の私の動き](#)
- 3、[今、私たちにできること](#)

1、 地震当日 2011.3.11 の私の体験

I was at our school on the day. I felt a big shake. We spent all day long without the electricity.

A very frightening experience was done.

その日は学校だった。クラス全員で給食バイキング完食し、5時間目の体育を吐きながら頑張り、6時間目の学活までの休み時間のときだった。

2時46分18秒 M9.0 三陸沖で東日本大震災が発生した。

しばらくすると電気が消えた。最初は騒ぎ、「揺れている～」と、楽しんでいたクラスのみんなも不安げな顔を浮かべていた。なかなか揺れもおさまらず、余震も続きこのまま死ぬのではないかと思ったほどだった。少し余震がおさまったところで、体育館に学校に残っていた高校生と中学生全員が集まり、集団下校することとなった。

帰りは電気がないため徒歩で駅まで向かいバスで湯沢へ帰らなければならなかった。

その年は異常なまでの豪雪で3月のくせに雪が降っていた。

駅に着き、公衆電話で家と連絡をつけようと思ったが、まったく繋がらず連絡のつけようがなかった。周りの人たちの様子を見ると、携帯もつながらないようであった。しょうがないので、まずは代行バスに乗ろうと思ったが同じ状況におかれた人が多く、一本目のバスには乗れず次のバスに乗った。乗ったはいものの、なかなか進まない。窓をみれば一切の明かりがない見慣れない風景が続いた。家も、信号も、電灯も、コンビニも一切の明かりがなかった。「こんなことなかなかないよね。」「写メりたーい。」と、明るく話していた私たちだったが、「いつまで続くのかな。」「普通なら6時間くらいで復旧するはずだけどね。だいぶだったし、やばいのかも。」「家大丈夫かな。」と、やはり不安は隠せなかった。

そんな会話をし、湯沢駅で降り、家に着いたころには大分時間がたっていた。

家に着き、玄関を開けたのはいいものの真っ暗でなにも見えなかった。とりあえず「ただいま。」と言うと妹が懐中電灯を持ち、「おかえり」と迎えてくれた。リビングに行くと親に泣きながら「よかった。帰ってきた。」と、言われた。なぜ泣いているのかと聞くと家族がそろって安心したと言われた。

私の家は特殊なので冬でもヒーターがなくても暖かいのだが、隣の家は寒くていられないので車にいるという話を聞き私の家に呼んだ。そして、電気はつかなかったがガスと水は使えたので、ご飯は温かいものということでうどんを食べた。

その最中も何度も余震がきてそのたびにみんなでろうそくを押さえた。そしてみんなでラジオを聞いた。テレビが見られないので情報源はラジオと親の東京方面に住んでいる友達からのメールしか情報源がなかった。ワンセグは電波が悪すぎてあてにならなかった。

そのなかで聞こえてくるのは「太平洋側が壊滅的な被害」「町が火の海だよ」「スペクタクル映画を見ているようだ。」とそのようなものばかりだった。私たちより大変なところがあるのかと驚くばかりだった。しかし映像がないと妄想するしかできないわけで、どうも実感が沸かないのも事実だった。私が映像をみてさらなる衝撃をうけるのは、次の日の朝9時のことであった。

2、地震後3ヶ月間の私の動き

Our life is the same with it before the earthquake. I have no chance to participate in the volunteer movement for the recovery.

今現在、私たちは東北でも一番被害がなく、地震前と変わらぬ生活を送れている。地震直後は、テレビの「地震情報」や、「緊急地震速報」に反応していたがもう震度3・4位では普通になってしまった。

1ヶ月後に起きた最大余震でも電気が止まっただけで、困ったのは携帯の充電くらいであった。「頑張ろう東北」と言われるたび申し訳なるくらいだ。

被災地に向け具体的に活動したのは支援物資の提供・募金・チャリティグッズの購入位である。ボランティア等にも参加したいのだが、なかなか参加できる機会が無い。

3、今、私たちにできること。

I can "It doesn't forget." it is very Important.

この夏のお盆、ふと気づいたことがある。帰省してきた人が去年よりはるかに多いのだ。お墓参りでも近くの観光地でも、それがよくわかった。きっと、この震災をきっかけに「家族」というものをみんな考えたのだと思う。少なくとも震災で多くのことが見直されている。それをもう一度日本全体で考えることが今、私たちにできることではないだろうか。私は、この震災を「忘れない」ことが大切だと思う。少しずつメディアでふれられることが無くなっていても、忘れずにいたい。そして、私たちが生まれた1995年には「阪神・淡路大震災」そして15歳の2011年には「東日本大震災」節目に大きな地震が起こっている私たちは、特に忘れてはいけない学年なのではないかと思う。



2011,3,11
東日本大震災